

2007年度 第7回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2007年11月13日(火) 午後7時15分～9時15分
開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
出席委員：飯塚 睦、熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重、柳澤正樹
 山下恭子、渡辺美恵<以上7名、敬称略、あいうえお順>
欠席委員：阿部靖子、安岡厚子<以上2名、敬称略、あいうえお順>
事務局：齊藤 睦(地域福祉課長)、中澤一郎(主事)、川崎 圭(主事)
 今林朝香(コーディネーター)、平田典子(コーディネーター)、丸木 敦(係長)
実習生：渡辺友貴、千葉英幸

配布資料

資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(10月)
資料 2：コーディネート状況等月次報告
資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表(11月)
資料 4：2007年度第3回災害時のシステムづくり専門委員会会議録<確定稿>
資料 5：2007年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
資料 6：歳末たすけあい運動募金配分金を使った2009年度事業(案)
資料 7：ボランティア・市民活動センターが今後行わなければいけないこと
学習会資料：「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」「買物袋持参運動」資料

委員長：帰宅訓練も今週の土曜日にあるのでそのことも含めての話があると思うが、早速運営委員会を始める。議題に入る前に実習生が出席しているので紹介してほしい。

実習生自己紹介<記録省略>

委員長：では、月次報告から行う。

1. 報 告 事 項

(1).西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

10月期の業務報告

事務局より、資料1に基づき10月に行われた主な事業についての報告が行われた。

委員長：市民まつりに参加した委員はお疲れ様でした。市民まつりはどうだったか。

事務局：市民まつりでは、わたあめを1本100円で販売したが、あいにくの天気で目標数には至らなかった。

委員：雨でも市民は多く参加していた。わたあめは人気のある商品だとあらためて感じた。

事務局：先ほど11月に行われたNPO法人連絡会の内容を報告したが、10月にはNPOセンターの機能について話されていたので補足する。

委員長：12月に市が行う協働の基本方針についての報告会は、協働に関する提言をあらためて作成したものなのか。

事務局：今までのものを市民向けに加筆、修正したものということだった。詳細については近々、西東京市のホームページに掲載するということがあった。

委員：担当者研究協議会とはどのようなものなのか。

事務局：東京ボランティア・市民活動センターが主催したもので、中間支援センターのあり方についての検討などがされた。

他に質問、意見なく、10月期の業務報告を終了する。

10月期のコーディネート状況報告

委員長：では続いてコーディネート状況の報告をしてほしい。

事務局より、資料2に基づき10月のコーディネート状況の報告が行われた。

委員長：このことについて質問、意見はあるか。

質問、意見なく、10月期のコーディネート状況の報告を終了する。

11月期の業務予定

委員長：では、11月の業務予定について説明してほしい。

事務局より、資料3に基づき11月期の業務についての説明がある。

委員長：質問はあるか。

質問、意見なく、以上をもって11月期の業務予定の説明を終了する。

(2).災害時のシステムづくり専門委員会報告

事務局より、資料4に基づき、第3回災害時のシステムづくり専門委員会の報告および帰宅困難者対応訓練の進捗状況の報告がある。

質問、意見なく以上をもって第3回災害時のシステムづくり専門委員会、帰宅困難者対応訓練進捗状況の報告を終了する。

2. 学 習 会

イオン株式会社マックスバリュ田無芝久保店の取り組みについて

【委員からの話】

マックスバリュはイオン株式会社という会社で、都内にはあまりないが全国的には店数は多くなっている。今日は2つの事業を紹介したい。一つは幸せの黄色いレシートキャンペーン。二つ目に買物袋持参運動を紹介する。企業なので、企業繁栄ということが目的にあるが、地域のためということも考えている。

黄色いレシートキャンペーンについてだが、毎月11日に黄色いレシートを発行し、お客様が福祉施設や団体名が書かれたボックスに投函してもらうというもの。ボックスはいつも置いているのでレシートを一度持ち帰って家計簿につけてから次回の来店時にボックスに投函してもらうということもできるようになっている。ボックスに投函されたレシートの総額の1%の品物をそのボックスの団体、施設に寄付するということになる。現在登録されている団体は6団体となっている。今年で3年目になり、たまたま今登録していただいているのは西東京市内の団体、施設ばかりだが、近隣市の団体も

登録可能となっている。登録していただける団体は条件があり、それを満たしていただく必要がある。どこのお店でも同じ活動をしており、多いお店では20団体くらいが登録している。登録団体数が多くなると1団体への寄付金額が少なくなってしまうということがある。お客様が自分で団体を選びそのことで地域貢献に参加しているという意識をもってもらえていることがよいのではないかと考えている。関心のあるお客様が増えてきているという印象がある。

環境問題を語るときに象徴的に出てくるのがレジ袋の問題で、そのレジ袋を減らすことを目的としている。レジ袋をなくすということは、ゴミをなくすこと、二酸化炭素を減らすことにつながり、それを目的としている。この取り組みによって企業としては、経費の削減にはなっていない。レジ袋をお客様に辞退してもらうことによりスタンプを押し、そのポイント数によって品物と交換できるという形になっている。他の企業ではレジ袋を辞退することにより購入金額から直接引いているところもあるが私たちのところではワンクッションおいている。レジ袋は1枚1円するが、辞退してもらうことにより逆に経費がかかっている。しかし、今では経費をかけてでも環境問題に取り組むことが企業にも必要になっている。レジ袋の持参化をしているところでは辞退率が80%を超えている。イオンでは15%くらい。都市部に近い地域の辞退率が高くなっている。レジ袋を有料化していないと時代に取り残されるという状況になってくると思う。全国的に6月、10月が環境月間となっている。この期間にお店でも力を入れて取り組んでいる。このような取り組みに行政が協力をしてくれるともっとやりやすくなると思っている。

企業も地域の人たちとどれだけ一緒に、共感して活動をしていくかということが求められている。昔とは随分考え方が違ってきている。

【質問・意見交換】

委員長：質問や意見、感想はあるか。

委員：素朴な疑問だが、黄色いレシートの発行が毎月11日、レジ袋のスタンプも11日ということだが、11という数字に何か意味があるのか。

委員：特に意味はないが、毎月20日と30日をお客様感謝デーにしているので、月の中間は何もなく、11日と覚えやすいということからではないかと思う。

委員：黄色いレシートキャンペーンと同じような取り組みを他のお店では聞いたことがないが、どのようにして作り出されたものなのか。

委員：会社全体の取り組みとしてイオン1%クラブというものがあり、企業利益の1%を地域に使うということで地域社会を支援している。これを各お店の中で実現していこうということで始まったようだ。

委員：幸せの黄色いレシートキャンペーンの実施結果の報告はどこかでしているのか。

委員：社内で取りまとめている部署があり、そこから結果を報告している。

委員：お客さんにはどのように結果を知らせているのか。

委員：集計をして寄付をしたときにボックスに掲示をし、その結果をお客様に報告している。

委員：行政の後押しがあるとやりやすいという説明だったが、具体的にはどのような協力が必要なのか。

委員：自治体が広報活動をしていてくれるところがあるが、お店のPRということではなく、レジ袋を減らすことが環境問題の解決につながるというようなことを行政が一般市民に伝えてくれると、このような取り組みが盛んになると思う。

委員：土曜日、日曜日に買物に行くことが多いが、1回のレジに対して1個のスタンプということだったが、金額によってスタンプ何個を押しという形にはならないか。

委員：スタンプカードに押しするのは買物の品数や金額ではなく、レジ袋を辞退していただいたことへの感謝の気持ちとして行っているのが現状のやり方となっている。

委員：マイバッグはどのくらいの大きさのものなのか。

委員：携帯用だとLサイズといわれるもの。レジかご用は、かごいっぱいに入れてちょうどくらいになっている。

委員：他のお店のバッグを持ってくるお客様も増えてきている。

委員：テレビの番組でやっていたが、お買物かごは昔からあったもので、誰もが経験したことだと思う。

委員：スーパーマーケットではホワイトトレイなどをなくしていくことになるのか。

委員：そうなると思う。トレイにしないと売り上げが落ちる商品もあるので、そういうものは換えられないと思うが、できるものはどんどん換えていっている。

委員長：ではこのへんで学習会を終了する。

3. 審 議 事 項

(1). 2007年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

資料5により、第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。

委員長：訂正などの意見はあるか。

訂正、削除、追加などの意見なく第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とすることを承認した。

(2). 歳末たすけあい運動募金配分金使途（2009年度使用分）について

事務局より資料6に基づき、2009年度事業における歳末たすけあい運動募金配分金の使途（案）についての提案がある。

委員長：ボランティア・市民活動センターの事業に必ず配分されるものなのか。

事務局：配分検討委員会で最終決定するが、保障されているものではない。

委 員：シンポジウムはこの配分金が無かったとしても、この時期にシンポジウムを実施しようと計画をしているから今回の使途案となっているのか。

事務局：次の議題にも関係するが、これからボランティア・市民活動センターが実施をしていかなくてはいけないことと考え、案を作成した。

委 員：この視点ではどうなのだろうか。市民活動が市民に重要だということを知ってほしいということでは人を集めるのは難しい。市民活動が楽しいということを知ってもらうということならばこの時期でもよいと思うが。

委員長：NPO 法人連絡会などの中間支援組織が行うことと、ボランティア・市民活動センターが行うこととの差別化を図ることが必要だと思う。

委 員：シンポジウムを行うことには賛成する。

委員長：シンポジウムを行うのであれば、差別化して特色を出すことが必要だと思う。シンポジウムを行うことに異論はあるか。

委 員：歳末たすけあい運動募金の配分金を NPO 団体に助成して事業を実施してもらうことは可能なのか。

委員長：可能だと思うがそのやり方は市が行っている。

委 員：市がすでに行っているが、ボランティア・市民活動センターがやりたいということを市民活動団体に助成をし、一緒に実現していくというような形で助成を活用することも考えてよいのではないか。

委員長：形態はどうであれ、シンポジウムということでよいか。

反対意見なく、事務局案のとおり2009年度の歳末たすけあい運動募金の配分金によりシンポジウムを開催することを承認した。

委員長：今日出された意見を含めて今後、シンポジウムの内容を詰めていくことにしたい。

(3). 西東京ボランティア・市民活動センターのこれからについて

資料7に基づき、事務局より今後のボランティア・市民活動センターの動き方についての提案がある。

委員長：早急に答えを出す必要があるのか。

委員：ボランティア・市民活動センターの職員が何をしたいのかを出さないといけないのではないかと。ミッションを明確にしていく必要があるのではないかと。

委員長：ミッションを実現していくためのプランを作る時期にあるのではないかと。

委員：資料中にコーディネートをしっかり行うということがあるが、現在はどうなっているのか。先日の市民まつりを見ての感想として、財源を確保するという目的だったのかもしれないが、ボランティア・市民活動センターの職員がわたあめを一生懸命に売っているというようなことでよいのかなと思った。市民まつりという場を使ってアイマスクの経験や、車いすの押し方を市民に体験してもらってもよかったのではないかと。ボランティア・市民活動センターの存在意義は何なのかということをも改めて考える時期に来ていると思う。

委員長：次回の運営委員会で強化プランを見直していただいて、ボランティア・市民活動センターがこれから何をしていくのかを議論したいと思う。

委員長：最後になるが実習生から今日の会議の感想を発表してもらいたい。

実習生：学習会での話が印象に残った。企業が地域の中で課題を解決しようとしていることが印象的だった。

実習生：事業やイベントを実施するにあたって、時間と労力がかかっていることを知った。環境問題に取り組むことが必要だということは知っていたが、自分がそのことをしているのかどうかを考える機会となった。

以上をもって、2007年度第7回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し、散会する。